

常磐保育園だより 第10号

TEL 058-232-8695

<http://www.chubufukushikai.jp/tokiwahtoikuen/>

教育は「共育」そして「協育」・・・

今回は、内田 伸子先生がお父さん方にメッセージを送っておられます。それについて考えてきたいと思えます。

パパはできることで手を差し伸べて

国を挙げて、男性の子育て参加を目的とした「イクメンプロジェクト」がスタートしたのは平成22年のこと。「イクメン」はその年の流行語大賞トップ10に入り、タレントのつるの剛士さんが受賞しました。今、「イクメン」という言葉はすっかり定着しており、パパ向けの子育て講座やイクメンセミナーが各地で行われています。私は、若いお父さんが積極的に育児に参加するのはとてもいい傾向だと思えます。核家族が主流になり、働く母親も珍しくないため、夫婦が協力し合わなければ子育ては乗り切れません。また家庭の事情により、母親が仕事をして父親が子育てを担っているケースもあります。

イクメンといっても、何をすればいいかわからないと戸惑う人もいるかもしれません。そこは難しく考えず、「お父さんの子育てはできることから」という気持ちで、肩ひじ張らず協力なさればいいと思えます。普段の子育ては妻に任せ、休みの日だけ子どもと一緒に公園などに遊びにいてはいいかでしょうか。いつも子どもにかかりきりの奥さんにとってはリラックスタイムとなり、骨休めをすることができるといいでしょう。また、奥さんが忙しそうだと気づいたら、子どものおむつを替えてあげたり、お風呂に入れてあげたりと、できることで手を差し伸べてあげてください。



やさしてひと言は妻の大きな励みに

子育て世代は働き盛りでもあり、子どもにそんなに関われないというパパは多いことでしょう。そこで、実際に子育てを手伝わない場合は、「大切な〇〇ちゃんをいつも世話してくれてありがとう」「君が育ててくれているからきっといい子になるね」などとねぎらいの言葉をかけてほしいと思えます。母親が子どもを育てるのは当たり前かもしれませんが、しかし子どもをもつてからというもの、すぐに母親らしい役割ができるわけではありません。初めての子どものあらゆることは、母親にとっても初めてのことで、大切な命を預かっていることに不安を抱いたり、毎日あれこれ悩んだりしているのです。妻へのやさしいひと言が、どんなに励みになるかしれません。

仕事に対して厳しく、部下を叱り飛ばしていた男性が、赤ちゃんが生まれてからやさしくなったという話はよく聞きます。生まれてばかりの赤ちゃんが何もできないのと同様、社会に出て間もない若者がベテラン並みの仕事はできないのだと初めて気づくのです。

「育児は育自」といわれるように、子育てを通して親もさまざまなことを知り、学び、発見します。父親もそうした経験ができるといいですね。そして、教育は「共育(育てる側も育てられる側も共に学び成長すること)」であり、社会と協力して子どもを育てる「協育」という営みです。

お父さん方は、社会と子どものパイプ役として、子どもが成長するにはどのような社会のあり方が望ましいかを見極め、未来を考えてほしいと思えます。

コロナ禍で、「ステイホーム」「家族との時間の大切さ」が求められています。その一方で、大人も子どももさまざまなストレスを抱えております。もちろんお父さんもお母さんでもしょう。今だからこそ、子どもや家族と過ごす時間を大切にするとともに、ご家族で力を合わせながら、この危機を乗り越えていかなければと思います。そうすることを通して、子どもの未来や将来を明るく希望あるものにするため、みんなで支え合いながら、共に育ち、ともに協力し合って、より良い生き方、よりよい家庭、よりよい社会づくりに努めていきたいものです。

私たちが子どもとともに自らを成長させていく営みや、保護者の皆さんと協力して、子どもの健やかな成長に少しでも役立つよう、「教育」「共育」「協育」を進めていかなければと思っています。